

# 加賀検定

## 第10回 加賀ふるさと検定試験問題

上級 (全60問)

2022年12月18日

加賀ふるさと検定・おもてなし講座実行委員会

各問題に対して、それぞれ①～④までの選択肢の中に正解が1つあります。解答用紙に、正解と考える番号を1つだけ○で囲って下さい。(黒色のエンピツもしくはボールペンを使用のこと)

- 1 加賀市の方言で、農村部の民家の広い居間を「オエ」、仏壇を置いた座敷を「デイ」、寝室として使った部屋を「ナンド」、便所を（ ）と称していた。  
①センチャ ②カワヤ ③シモノマ ④フジョウマ
- 2 蚊などの害虫を防ぎ、夏の風物詩でもある蚊帳の布地は、古くは主に（ ）を使用した。  
①綿 ②茅萱 ③麻 ④絹
- 3 昭和30年代頃まで、雨の日や強い日照りの時は、イグサを原料とした（ ）を着用する人が多くみられた。  
①被り莫蔭 ②着莫蔭 ③蛇の目莫蔭 ④背当て莫蔭
- 4 江沼三山を高い順に並べると（ ）番となる。  
①大日山 - 鞍掛山 - 富士写ヶ岳 ②富士写ヶ岳 - 大日山 - 鞍掛山  
③大日山 - 富士写ヶ岳 - 鞍掛山 ④富士写ヶ岳 - 鞍掛山 - 大日山
- 5 動橋町の振橋神社には、昔、村内に毒蛇がいて、娘たちを奪っていくことがあり、住民を苦しめていたが（ ）が退治したという伝承がある。  
①オオナムチノカミ ②オオヒコノミコト ③イザナミノミコト ④スサノオノミコト
- 6 加賀市には、ため池が多く、（ ）のような止水性のトンボを多く見かける。  
①ハグロトンボ ②オニヤンマ ③ギンヤンマ ④ムカシトンボ
- 7 ブナクラス域(夏緑広葉樹林帯)は、あまり人が立ち入らない地域で、そこにはブナ、トチノキ、ミズナラ、（ ）などが多く見られる。  
①ツツジ ②スダジイ ③ユリ ④イヌシデ
- 8 加賀地方で使われてきた方言「どくしょな」とは、主に（ ）という意味で使われていた。  
①薄情な ②ものしり ③利口な ④素晴らしい
- 9 大聖寺川河口の国指定天然記念物、鹿島の森には、アカテガニや（ ）などの珍しい動物が生息している。  
①ノミハマグリ ②ツルガマイマイ ③ヤマトシジミ ④カバサクラガイ

10 縄文時代早期の柴山水底貝塚からは、県内最古の人骨や関西の影響を受けた（ ）が多数出土している。

- ①加曾利式土器 ②星田式土器 ③大川式土器 ④北白川式土器

11 藤の木遺跡からは、北陸の標式土器である（ ）・古府式土器・大杉谷式土器のほか、東海・近畿・関東系土器が発見され、東西文化の接点であったことを示している。

- ①遠賀川式土器 ②長原式土器 ③上山田式土器 ④田戸式土器

12 「北陸の登呂遺跡」とも称される猫橋遺跡から出土した土器の形から、（ ）との結びつきが極めて強いことが分かった。

- ①関東文化圏 ②中京文化圏 ③山陽文化圏 ④山陰文化圏

13 弥生後期から古墳後期の<sup>おおすがなみ</sup>大菅波A遺跡からは多数の<sup>すえき</sup>須恵器が発見された。これらの須恵器は（ ）から運ばれたと推定され、関西との強い結びつきが想定される。

- ①牛頸窯跡群 ②陶邑窯跡群 ③猿投窯跡群 ④湖西窯跡群

14 富塚丸山古墳は、半壊し直系70m程度の規模であるが、大型の前方後円墳であった可能性も指摘されている。江戸時代に村人が甲冑や刀剣・（ ）等を出土したと伝わる。

- ①銅鏡 ②帯金具 ③勾玉 ④形象埴輪

15 寛治5年(1091)、加賀守藤原為房は、加賀国府から帰京に際し、（ ）を中継点として敦賀津まで向かったと日記に記録している。

- ①安宅湊 ②本吉湊 ③潮津駅 ④淡津泊

16 熊坂庄の地頭職を領有した大見実泰は、文永10年(1273)、この庄の領家であった（ ）の預所と争い、領家と地頭で土地を折半する「和与中分」を行なった。

- ①西園寺家 ②徳大寺家 ③三条西家 ④園家

17 元弘3年(1333)、後醍醐天皇の倒幕運動に足利高氏(尊氏)が加担すると、加賀国福田庄（ ）惣領地頭の狩野頼広も能美郡の国人らと共に参陣した。

- ①南郷 ②諸田郷 ③菅浪郷 ④山代郷

18 加賀国の北野天満宮領の富墓荘は、室町時代中期には宮寺領とは名目だけで、地元の武士に侵害され、わずかに公家の（ ）が権益の一部を保有するだけになっていた。

- ①久我家 ②菅原家 ③高辻家 ④持明院家

19 15世紀以降、額田庄・八田庄では、( )の流れをくむ中院通世・通胤・通為の3代が約65年間にわたり荘園を直接経営した。

- ①嵯峨源氏 ②仁明平氏 ③村上源氏 ④文徳平氏

20 文明18年(1486)、京都の聖護院門跡( )が越前から加賀に入り、白山禅定道へと向かった。その行程が紀行文『廻国雑記』に記録されている。

- ①道興 ②増誉 ③道晃法親王 ④道澄

21 山口宗永(玄蕃頭)は、千利休に茶の湯を学び、( )の年寄衆や毛利輝元・小早川隆景などととともに茶会を開き、能楽にも通ずる当時の文化人であった。

- ①京都 ②大坂 ③博多 ④堺

22 慶長5年(1600)8月3日の大聖寺合戦では、前田軍の( )の家臣が鐘ヶ丸の戦いで多く戦死したため、現在の錦城中学校前の住宅地に「四墓」が立てられた。

- ①高山右近 ②太田長知 ③横山長知 ④長連龍

23 大聖寺藩祖前田利治は、九谷村や熊坂村に金山を、( )に銀山を開発するとともに、九谷焼の製造や山中漆器の保護など殖産興業にも力を注いだ。

- ①今立村 ②荒谷村 ③曾宇村 ④那谷村

24 万治3年(1660)4月大聖寺藩祖前田利治が江戸で死去したとき、中沢・小沢・小栗の家臣3人が殉死(追腹)したが、このうち小沢三郎兵衛は( )で自害した。

- ①宗英寺 ②久法寺 ③全昌寺 ④寛慶寺

25 大聖寺藩の十村を代々務めた者には、小塩辻村の鹿野小四郎、右村の堀野新四郎、( )の荒森宗左衛門、動橋村の橋本平四郎などが知られる。

- ①分校村 ②保賀村 ③山代村 ④山中村

26 大聖寺藩の御用杓(御用薪)は、領内三谷・西谷・東谷・那谷地区の村々などで生産されたが、その値段は江戸中期( )地区の村々が最も高かった。

- ①三谷 ②西谷 ③東谷 ④那谷

27 橋立・瀬越・塩屋の北前船主は、北海道松前で活躍した( )が所有した荷所船の沖船頭や水主として雇われたが、宝暦・天明期(1751~88)にはほぼ独立した。

- ①江戸商人 ②大坂商人 ③近江商人 ④伊勢商人

- 28 大聖寺藩主 9 代前田利之治世の財政収支は、藩主在国年・藩主在府年とも大きな赤字が出たが、とくに藩主在府年の赤字は莫大で、年間に銀（ ）貫匁の赤字となった。
- ① 129      ② 179      ③ 191      ④ 279
- 29 大聖寺町の豪商、5 代吉田屋伝右衛門は、文政 8 年（1825）7 月に同町の町人米屋次郎作とともに吉田屋窯を九谷村から（ ）の越中谷に移した。
- ①山代村      ②山代新村      ③長峰村      ④中野村
- 30 西出源蔵は大聖寺藩主（ ）の命を受け、嘉永 5 年（1852）に金沢の野町で吹屋の村山四郎兵衛らとともに大砲 3 挺を鑄造した。
- ①前田利極      ②前田利平      ③前田利義      ④前田利暲
- 31 大聖寺藩士東方芝山は、幕末、藩主の厚い信任を得て藩の政局に大きな影響力をもった。また、著書も多くあるが、現存するものは少なく、その代表的なものに（ ）がある。
- ①九経談      ②悟窓漫筆      ③勸農文      ④本草秘録
- 32 大聖寺の医師稲坂謙吉は、明治元年（1868）加賀藩の卯辰山養生所に入学し、医学をオランダ人軍医の（ ）などから学んだ。
- ①シーボルト      ②スロイス      ③ベルツ      ④ポンペ
- 33 大聖寺藩士渡辺卯三郎は蘭学の基礎を（ ）から学んだ。その後、大坂の緒方洪庵の適々齋塾に入門し、第 7 代目の塾頭となった。
- ①黒川良安      ②田辺明庵      ③馬島健吉      ④畑 久治
- 34 大聖寺町の初代町長を務めた梅田五月は、幕末、（ ）で砲術や洋学を学び、帰藩後は藩学校の兵学教師を勤めた。
- ①小浜藩      ②福井藩      ③大野藩      ④丸岡藩
- 35 大聖寺の陶芸家、初代中村秋糖は、父から陶画を学び、のち竹内吟秋に師事し、赤絵細描の名手となり（ ）の技法をあみだした。
- ①色絵金欄手      ②千筋刷毛目      ③砥質手      ④釉裏金彩
- 36 大聖寺魚町の御用商人（ ）は、大聖寺藩の産物御用達を務め、明治 3 年には和船静濤丸を藩から払い受け、自身の持ち船として北前船稼業に乗り出した。
- ①吉崎屋嘉兵衛      ②林 清一      ③中木伊三郎      ④瀧川幸太郎

- 37 蓮如れんにょは、浄土真宗本願寺第7代法主存如ほつすぜんにょ ちょうしよしの長庶子として出生し、永禄3年(1431)天台宗の( )において得度した。  
 ①三千院さんぜんいん ②滋賀院しがいん ③青蓮院しょうれんいん ④曼殊院まんじゆいん
- 38 大聖寺藩3代藩主前田利直としなおは、宝永6年(1709)に藩邸北隅の大聖寺川に面して長流亭を建造したが、この時期、幕府の( )となっていたためほとんど江戸に住んだ。  
 ①奥詰おくづめ ②側用人そばようじん ③若年寄わかとしより ④老中ろうじゆう
- 39 大聖寺藩新田藩主前田利昌としまさは、宝永6年(1709)上野寛永寺うえのかんえいじでの將軍徳川綱吉つなよし ほうえの法会に際し接待役となったが、同役の( )藩主織田秀親おだひでちか しきつを刺殺し、切腹せつぷくを命じられた。  
 ①大和芝村藩やまとしばむらはん ②大和柳本藩やまとやなぎもとはん ③大和郡山藩やまとこおりやまはん ④大和高取藩やまとたかとりはん
- 40 大田錦城おおたきんじょうは、大聖寺藩医( )の7男で、儒学を志し、独学で清の考証学を採り入れた折衷学派せつちゆうがくはを打ち立てた。  
 ①草鹿玄仲くさかげんちゆう ②竹内見庵たけうちけんあん ③榎田玄覚かしだげんかく ④野崎玄省のざきげんしょう
- 41 大聖寺藩士小塚藤十郎こづかとうじゅうろうは、松奉行として人生を海岸線の松植林事業に捧げ、天保15年(1844)には、藩の地誌( )を完成させた。  
 ①藩国見聞録はんこくけんぶんろく ②加賀江沼郡雑記かがえぬまぐんざっき ③秘要雑集ひようざつしゅう ④加賀江沼志稿かがえぬましこう
- 42 京都の陶工永楽和全えいらくわぜんは、慶応元年(1865)大聖寺藩の要請を受けて来藩し、九谷本窯や( )で窯業技術の指導を行った。  
 ①民山窯みんざんかま ②春日山窯かすがやまかま ③蓮台寺窯れんだいじかま ④小野窯おのかま
- 43 大聖寺「山の下寺院群」の一つで、作家深田久弥ふかたきゅうやの墓がある本光寺ほんこうじは( )の寺院である。  
 ①浄土宗じょうどしゅう ②曹洞宗そうとうしゅう ③日蓮宗にちれんしゅう ④法華宗ほっけしゅう
- 44 大聖寺藩では、武士の鍛錬のために片野鴨池の周辺で鴨や雁などを捕る坂網とが行われ、江戸後期には、矢竹で作ったY字形で、長さ約( )の坂網を用いて捕獲した。  
 ①2.5m ②3.5m ③4.5m ④5.5m
- 45 敷地天神社ごしんぼうに御神宝の蒔絵角赤手まきえすみあかてと御神楽代おかぐらだいを寄進した珠姫たまひめは、徳川秀忠ひでただの2女で大聖寺初代藩主前田利治の母にあたり、その法号は( )と称した。  
 ①芳春院ほうしゅんいん ②玉泉院ぎよくせんいん ③光現院こうげんいん ④天徳院てんとくいん

- 46 菅生石部神社には、大聖寺藩主（ ）の娘で加賀藩主 11 代前田治脩の正室となった法梁院が寄進した「白紋縺子地水仙唐花丸文様縫小袖及白絹」がある。
- ①前田利道 ②前田利精 ③前田利物 ④前田利考
- 47 大聖寺城下町の西端に置かれていた大聖寺関所は、明治 2 年（1869）に宗寿寺の檀家であった家老（ ）の口利きで同寺の境内に移された。
- ①佐分氏 ②村井氏 ③生駒氏 ④神谷氏
- 48 大聖寺藩の史学・地誌では、享和 3 年（1803）に塚谷沢右衛門が領内の名所旧跡や神社仏閣の口碑伝説などを記録した（ ）を完成させた。
- ①苅穂紀聞 ②藩国見聞録 ③秘要雑集 ④加賀江沼志稿
- 49 明治 11 年（1878）におこなわれた明治天皇の北陸巡幸は、8 月 30 日に東京を出発し、江沼郡入りをしたのは（ ）6 日のことであった。
- ① 9 月 ② 10 月 ③ 11 月 ④ 12 月
- 50 明治 12 年（1879）の「大聖寺博覧会」は、錦城小学校と（ ）の 2 カ所を会場にして、15 日間にわたって盛大に開催された。
- ①江沼神社 ②遷明中学校 ③願成寺 ④江沼物産館
- 51 片山津温泉の開湯は、明治 15 年（1882）に（ ）郡の観音堂村から招いた井戸掘りの森仁平が源泉掘削に成功したことに始まる。
- ①羽咋 ②鹿島 ③石川 ④河北
- 52 加賀温泉郷を結ぶ路線のすべてが馬車鉄道から電気に切り替わったのは大正元年のことであったが、以後、この電車は「温電」の名前で昭和（ ）まで地域に愛され続けた。
- ① 8 年 ② 17 年 ③ 22 年 ④ 28 年
- 53 明治 10 年（1877）、片野鴨池や坂網獵の管理をするために、士族（ ）らが中心となって江沼郡捕鴨業組合が結成された。
- ①東方芝山 ②前田 幹 ③飛鳥井清 ④生駒一彦
- 54 政府は GHQ の指令に基づき、昭和 22 年に農地改革を実施した。これにより江沼郡では、小作地が 23.2%あったものが、約（ ）%に減少した。
- ① 6 ② 8 ③ 10 ④ 12

55 明治25年(1892)の江沼郡役所の歳出を見ると、役場費・土木費・教育費・衛生費・勸業費など合計39,204円で、この内( )費は全体の46%を占めていた。

- ①土木 ②教育 ③衛生 ④勸業

56 江沼郡では、町村合併促進法に基づき、昭和29年(1954)3月、県内トップをきって大聖寺町が瀬越村を編入、続いて片山津町が( )村を編入した。

- ①柴山 ②塩津 ③篠原 ④作見

57 加賀市の工場団地は、従来からの宇谷野工場団地と小塩辻工場団地に続き、現在、分譲を開始している( )産業団地の3カ所がある。

- ①新保 ②片山津IC ③伊切 ④潮津

58 当市では、もともと塩屋・橋立・( )の3地区に漁業協同組合が設置されていたが、昭和49年(1974)にこれら3漁協が合併し、「加賀市漁業協同組合」となった。

- ①伊切 ②篠原 ③塩浜 ④黒崎

59 山中漆器の生産額のピークは昭和63年(1988)で、この頃、生産額は400億円、事業所数は約700カ所、従業員数も( )人に達していた。

- ①2,000 ②3,000 ③4,000 ④5,000

60 平成12年(2000)、加賀市・山中町・小松市・辰口町の4つの森林組合が合併し、現在の「かが森林組合」が発足した。さらに平成19年には( )森林組合もこれに加入した。

- ①能美 ②川北 ③野々市 ④白山